

旧藤村家住宅とその後

明治天皇巡行の小休所として指定された藤村家（現田村家住宅）は、旧北国街道筋にある名家で、江戸時代も加賀藩前田家の関係者が休憩所として訪れていたようです。

藤村家は村の有力者であったようで、10代目にあたる藤村理平は電力事業に^{じんりよく}尽力したほか、野々市村の村長を務めるなど、野々市の発展に大きな業績をのこしました。



藤村理平(1859~1920年)

明治天皇巡幸から50周年にあたる昭和2年（1927）、郷土史の研究会である^{かえつのおしだんかい}加越能史談会と、当時の^{くないしやうりんじていしつへんしゅうぶ}宮内省臨時帝室編修部が、それぞれ明治天皇に関する事績をまとめるために、野々市町役場に調査協力の依頼をしました。このとき、町役場は報告書を作成しており、その写しが現存しています。

同年10月5日、明治天皇巡幸50周年を記念し、旧藤村家の座敷の床の間に^{そんえい}ご尊影を掛け、酒・新米・梨を供えました。また、小学生や一般の人々に旧藤村家住宅を開放し、拝観を許可したほか、小学校の校長による明治天皇巡幸に関する講演会なども行うなど、町を挙げてお祝いしたようです。



旧藤村家(田村家)住宅の庭と離れ(座敷)

50周年記念時は、表門から庭に入り、座敷を観覧しました。